

予算特別委員会記録（第3号）

平成27年3月17日 火曜日 午前10時00分開議

蒲 生 光 男 委員長 竹 田 博 一 副委員長

出席委員（14名）

| | | | | | |
|-----|---------|----|-----|---------|----|
| 1番 | 赤 間 泰 広 | 委員 | 2番 | 梅 津 善 之 | 委員 |
| 3番 | 江 口 忠 博 | 委員 | 4番 | 今 泉 春 江 | 委員 |
| 5番 | 小 関 秀 一 | 委員 | 6番 | 竹 田 博 一 | 委員 |
| 8番 | 大 道 寺 信 | 委員 | 9番 | 蒲 生 光 男 | 委員 |
| 10番 | 町 田 義 昭 | 委員 | 11番 | 佐々木 謙 二 | 委員 |
| 12番 | 安 部 隆 | 委員 | 13番 | 渋 谷 佐 輔 | 委員 |
| 14番 | 高 橋 孝 夫 | 委員 | 15番 | 大 沼 久 | 委員 |

欠席委員（0名）

欠 員（1名）

説明のため出席した者

| | | | |
|-----------|---------------------|-----------|-----------------------|
| 内 谷 重 治 | 市 長 | 遠 藤 健 司 | 副 市 長 |
| 中 井 晃 | 総 務 課 長 | 齋 藤 環 樹 | 財 政 課 長 |
| 谷 澤 秀 一 | 企 画 調 整 課 長 | 高 石 潤 一 | 税 務 課 長 |
| 松 本 弘 | 市 民 課 長 | 梅 津 明 夫 | 健 康 課 長 |
| 松 木 幸 嗣 | 福 祉 生 活 あ ん し ん 課 長 | 種 村 正 一 | 子 育 て 支 援 課 長 |
| 青 木 邦 彦 | 会 計 管 理 者 兼 会 計 課 長 | 渋 谷 憲 治 | 市 民 相 談 セ ン タ ー 所 長 |
| 加 藤 芳 秀 | 教 育 課 長 | 孫 田 邦 彦 | 農 林 課 長 |
| 梅 津 和 士 | 商 工 振 興 課 長 | 鈴 木 広 弥 | 観 光 振 興 課 長 |
| 松 木 満 | 建 設 課 長 | 鈴 木 一 則 | ま ち ・ 住 ま い 整 備 課 長 |
| 横 山 賢 一 | 上 下 水 道 課 長 | 遠 藤 敏 男 | 管 理 課 長 |
| 齋 藤 理 喜 夫 | 文 化 生 涯 学 習 課 長 | 佐 野 安 広 | 生 涯 ス ポ ー ツ 課 長 |
| 寒 河 江 新 一 | 学 校 給 食 共 同 調 理 場 長 | 佐 々 木 弘 充 | 選 挙 管 理 委 員 会 事 務 局 長 |
| 高 橋 洋 一 | 監 査 委 員 事 務 局 長 | 鈴 木 隆 政 | 農 業 委 員 会 事 務 局 長 |
| 渋 谷 正 通 | 消 防 主 幹 | | |

事務局職員出席者

| | | | | |
|------|--------|------|-----|---|
| 飯澤常雄 | 議会事務局長 | 小林克人 | 補 | 佐 |
| 鈴木和夫 | 議事調査係長 | 小川由美 | 庶務係 | 長 |
| 安達洋司 | 主任技士 | | | |

本日の会議に付した事件

- 議案第 2号 平成27年度長井市一般会計予算
- 議案第 3号 平成27年度長井市国民健康保険特別会計予算
- 議案第 4号 平成27年度長井市公共下水道事業特別会計予算
- 議案第 5号 平成27年度長井市山形鉄道運営助成事業特別会計予算
- 議案第 6号 平成27年度長井市農業集落排水事業特別会計予算
- 議案第 7号 平成27年度長井市訪問看護事業特別会計予算
- 議案第 8号 平成27年度長井市介護保険特別会計予算
- 議案第 9号 平成27年度長井市浄化槽事業特別会計予算
- 議案第10号 平成27年度長井市後期高齢者医療特別会計予算
- 議案第11号 平成27年度長井市宅地開発事業特別会計予算
- 議案第12号 平成27年度長井市水道事業会計予算

開 議

○蒲生光男委員長 おはようございます。

これより会議を開きます。

本日の会議に欠席の通告委員はございません。よって、ただいまの出席委員は定足数に達しております。

平成27年度長井市各会計予算に関する総括質疑

○蒲生光男委員長 それでは、13日の総括質疑に続き、続行いたします。

今泉春江委員の総括質疑

○蒲生光男委員長 次に、順位4番、議席番号4番、今泉春江委員。

○4番 今泉春江委員 皆様、おはようございます。日本共産党の今泉春江でございます。よろしく願いいたします。本当に最後の最後に質問の場をいただきまして、感謝申し上げます。

それでは、早速質問に入ります。

私は12月議会の後、多くの市民の皆様とお会いいたしました。そして、市民の多くの方々は、どこへ行っても、どなたも今一番の市政の関心は道の駅でした。それは多額の予算が投じられ、本当に市民のためになるのか、市民が望んでいることなのか、自分たちの利益になるのか、市が活性化するのか、財政再建がやっとできて最

初にするのが道の駅なのか、さまざまな声が届けられました。しかし、このたび道の駅ではなく観光交流センターとなり、市民は、それは何、道の駅ではないのと、ますます疑問が深まるばかりです。そんな多くの市民の疑問や心配の声を市長にお尋ねします。市民の声として受けとめてお答えくださるようお願いいたします。

それでは、市長にお聞きします。

まず最初の質問です。観光交流センターとしたことでお客様は来るのでしょうか。道の駅だからこそお客様が来るのではないのでしょうか。いかがでしょうか、市長。

○蒲生光男委員長 内容重治市長。

○内容重治市長 お答えいたします。

観光交流センターということでお客様は来るのか、道の駅だからこそ魅力があり、お客様が来るのではないかということですが、さきの一般質問でもお答えいたしました。長井市が目指す観光交流センターは、飯豊町のめざみの里や白鷹町のあゆ茶屋のように長井周辺の道の駅でございますけれども、こういった郊外型の施設完結型の道の駅とは異なる考え方でございます。しかしながら、こうした一般的な道の駅のイメージが先行してしまい、今回整備する観光交流センターの真の目的やその機能についてご理解いただいていないのではないかの思いから、都市再生整備計画のメニューである観光交流センターを整備すると再三申し上げております。

道の駅というような整備メニューはございませんので、これは例えば、ほかの飯豊町や白鷹町、あるいは今度米沢でも整備される2カ所目の道の駅というのは、それは道の駅をつくるということでの事業でしょうけれども、私ども長井市のほうでは、そういった単独の事業ではなくて、あくまでも補助事業のメニューを使ってパッケージ事業として今回観光交流センターと、市民の生活の向上のための生活環境整備を図る